

2.5 専門教育科目

1) 生産科学科

主に植物と動物を対象とした生物資源の生理・生態を集団・個体・細胞・分子・遺伝子レベルで多面的に解明し、生物資源が持つ有用機能を活用した生産技術の開発および普及などに重点をおいた教育研究を行う。また農業経済学、経営学、生産システム学の教育と調査実習などの応用により、この分野の進展に貢献できる人材を育成する。なお、最終学年では卒業研究と演習を必修科目とする。生産科学科は次のとおり4つのコースに分かれている。

① 生産科学コース

生産科学コースでは、植物・動物生産の基礎および専門的知識を身につけ、農業生産の効率的なシステム化、農業経済・経営など、生物生産について広範囲の内容を体系的に学ぶことができる。また農場実習などの体験型実習科目により農産物の栽培や収穫、家畜の飼育などを実践的に習得する。本コースでは、生物資源を利用した新しい生産技術の開発および普及に貢献できる人材、農業生産分野のリーダーとなる人材を育成する。

② 生産環境制御コース

生産環境制御コースでは、生産科学科のカリキュラムで行われる、植物生産や動物生産、生産システム、農業経済・経営学に関する基礎的・応用的講義と実習に加えて、高度環境制御施設や植物工場での作物生産に必要な、環境計測・制御、水耕栽培、人工光による栽培などの知識・技術を体系的に学ぶ。近年、作物生産における高度な環境制御が可能となってきた中で、各環境要素の相互関係を解明して調節し、より低コスト・高性能で生産を最適化する「統合環境制御技術」の構築が進められてきている。本コースでは、この統合環境制御の概念や、エネルギーの利用について理解し、新しいかたちの農業に応用していく能力を持つ人材を育成する。

③ 先端バイオコース

生産科学科のカリキュラムである植物生産や畜産、農業経営学に関する講義と実習を通して、生物生産、農林水産業に関する様々な知識と技術を習得するとともに、先端バイオコースで設けられた微生物、植物のゲノム情報の解析方法や遺伝子組換え、その応用、バイオテクノロジーと環境や産業との関わり等に関する講義・実習を受講することによって、バイオテクノロジーに関する知識と技術、思考力を持つ人材の育成に取り組む。本コースでは、バイオテクノロジーを活用した食品成分・医薬品原料・酵素など有用物質の高効率生産、高品質の種苗開発、農業・バイオマス・環境関連技術等に対応できる人材を育成する。

④ 6次産業化コース

生産科学科のカリキュラムでは植物生産や畜産、農業経営学に関する講義と実習を通して農林水産業に役立つ人材の育成を行っている。6次産業化コースではさらに食品に関する製造加工、安全、栄養、法規について学ぶとともに、うどんやパン作りを経験することによって食品製造の分野で役立つ知識と技術を習得する。本コースでは、農水産物の高付加価値化といった地域の農林水産業と食品産業の活性化に役立つ人材、企業において農林水産物や食品を通じた新たなビジネスを提案できる人材を育成する。

表2.2 生産科学科における専門科目 <履修規程 別表3>

(開講学期補記)

分野	科目番号	授業科目の名称	配当 年次	開講学期		各コース単位数 (履修グループ)							
				前期	後期	生産科学		生産環境制御		先端バイオ		6次産業化	
						必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
共通科目	200	生物資源環境学概論	1	○		2		2		2		2	
	201	石川の自然と農林水産業	1		○	2 (A)		2 (A)		2 (A)		2 (A)	
	202	生物統計学	2		○	2 (A)		2 (A)		2 (H)		2 (A)	
	203	応用気象学 (食品除く)	1	○		2 (A)		2 (G)		2 (A)		2 (A)	
	204	環境倫理学	3	○		2 (A)		2 (A)		2 (H)		2 (A)	
	205	栽培学概論	1	○		2 (A)		2 (G)		2 (A)		2 (A)	
	206	廃棄物・資源循環論	3		○	2 (A)		2 (G)		2 (H)		2 (A)	
	207	遺伝学概論	1	○		2 (A)		2 (A)		2 (G)		2 (A)	
	208	植物生理学 I	2		○	2 (A)		2 (G)		2 (H)		2 (A)	
	209	生態学概論	1	○		2 (A)		2 (A)		2 (A)		2 (A)	
	210	微生物学概論	2		○	2 (A)		2 (A)		2 (G)		2 (A)	
	211	生物学概論 (環境除く)	2		○	2 (A)		2 (A)		2 (A)		2 (A)	
	212	分子生物学概論	2	○		2 (A)		2 (A)		2 (G)		2 (A)	
	213	生化学概論	1		○	2 (A)		2 (A)		2 (G)		2 (A)	
	214	農場実習 A	2	○		2*		2*		2*		2*	
	215	農場実習 B (環境除く)	2		○	2*		2*		2*		2*	
	216	分子生物学実習	2	集中		2 (A)		2 (A)		2 (G)		2 (A)	
	217	地域食農フィールド演習	1		通年		1		1		1		1
	218	生物資源環境学社会生活論	1	○		1		1		1		1	
	219	土壌環境学 (食品除く)	2	○		2 (B)		2 (H)		2 (B)		2 (B)	
固有科目	300	生産科学英語	2	○		1		1		1		1	
	301	植物育種学	3	○		2 (B)		2 (B)		2 (B)		2 (B)	
	302	植物遺伝学	1		○	2 (B)		2 (B)		2 (H)		2 (B)	
	303	植物生理学 II	3	○		2 (B)		2 (B)		2 (B)		2 (B)	
	304	植物細胞工学	2		○	2 (B)		2 (B)		2 (H)		2 (B)	
	305	植物保護学	3		○	2 (B)		2 (H)		2 (B)		2 (B)	
	306	植物病理学	2	○		2 (B)		2 (H)		2 (B)		2 (B)	
	307	応用昆虫学	3	○		2 (B)		2 (B)		2 (B)		2 (B)	
	308	植物生産学	2	○		2 (C)		2 (C)		2 (C)		2 (C)	
	309	植物形態・機能学	2	○		2 (C)		2 (C)		2 (C)		2 (C)	
	310	食用作物学	2		○	2 (C)		2 (C)		2 (C)		2 (C)	
	311	産業資源作物学	3	○		2 (C)		2 (C)		2 (C)		2 (C)	
	312	蔬菜園芸学	3		○	2 (C)		2		2 (C)		2 (C)	
	313	果樹園芸学	3	○		2 (C)		2 (C)		2 (C)		2 (C)	
	314	花卉学	3		○	2 (C)		2 (C)		2 (C)		2 (C)	
	315	畜産学概論	1	○		2 (D)		2 (D)		2 (D)		2 (D)	
	316	動物繁殖学	3	○		2 (D)		2 (D)		2 (D)		2 (D)	
	317	動物生体機構学	2	○		2 (D)		2 (D)		2 (D)		2 (D)	
	318	動物育種学	3	集中		2 (D)		2 (D)		2 (D)		2 (D)	
	319	動物栄養学	2		○	2 (D)		2 (D)		2 (D)		2 (D)	
	320	動物管理学	3		○	2 (D)		2 (D)		2 (D)		2 (D)	
	321	生産システム学	2		○	2 (E)		2 (E)		2 (E)		2 (E)	
	322	生物計測工学	3	○		2 (E)		2 (H)		2 (E)		2 (E)	
	323	農業経営・農業生産組織論	3		○	2 (E)		2 (E)		2 (E)		2 (E)	
	324	食料経済・食料安全学	2	○		2 (E)		2 (E)		2 (E)		2 (E)	
	325	生物資源経済学	2		○	2 (E)		2 (E)		2 (E)		2 (E)	
	326	農林水産政策学	3	○		2 (E)		2 (E)		2 (E)		2 (E)	
	327	植物遺伝子工学実験	3		○	2 (F)		2 (F)		2 (F)		2 (F)	
	328	生産科学基礎実験	3	○		2 (F)		2 (F)		2 (F)		2 (F)	
	329	植物生産学実験	3	○		2 (F)		2 (F)		2 (F)		2 (F)	
	330	植物生産学基礎実験	2		○	2 (F)		2 (F)		2 (F)		2 (F)	
	331	動物生産学実験	3	○		2 (F)		2 (F)		2 (F)		2 (F)	
332	生物生産工学実験	3		○	2 (F)		2 (F)		2 (F)		2 (F)		

分野	科目番号	授業科目の名称	配当年次	開講学期		各コース単位数 (履修グループ)							
				前期	後期	生産科学		生産環境制御		先端バイオ		6次産業化	
						必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
固 有 科 目	333	学外農業関連実習	3	集中			1		1		1		1
	334	植物環境生理学 ※	3	○				2					
	335	植物環境制御学 ※	3		○			2					
	336	植物環境制御学実験Ⅰ ※	3	○				2					
	337	植物環境制御学実験Ⅱ ※	3		○			2					
	338	ゲノム分析実習 ※	3		○					2			
	339	環境ゲノム学 ※	3		○					2			
	340	人間環境学 ※	3		○					1			
	341	バイオ医薬・産業学 ※	3	○						2			
	342	遺伝子機能解析学 ※	3		○					2			
	343	食の6次産業化プロデューサー集中講義 ※	3		○								2
	344	生産科学演習	4		通年	2		2		2			2
	345	卒業研究	4		通年	10		10		10			10
他 学 科 科 目 (カ ツ コ 内 は 開 講 学 科)	405	生物多様性学 (環境)	2	○						2 (H)			
	408	微生物生態学 (環境)	3	○						2 (H)			
	502	生化学 (食品)	2	○						2 (H)			
	503	有機化学 (食品)	2	○						2 (H)			
	504	分子生物学 (食品)	2		○					2 (H)			
	522	バイオインフォマティクス (食品)	3		○					2 (H)			
	523	応用微生物学 (食品)	3	○						2 (H)			
	501	食文化論 (食品)	3		○								2
	506	食品加工学 (食品)	3		○								2
	509	食品化学 (食品)	3	○									2
	512	食品管理学 (食品)	3	○									2
	516	食品保蔵学 (食品)	3		○								2
	519	食品マーケティング論 (食品)	3		○								2
	527	フードスペシャリスト論 (食品)	3	○									2
538	フードマーケティングの理論と実際 (食品) ※	3	○									2	
539	食品生産学外実習 (食品) ※	3	集中									1	
備 考	【生産科学コース】 ① 必修 (*のうち、どちらかを修得) 科目: 18単位 ② Aグループから14単位以上修得 ③ B、C、D、Eの各グループから各6単位以上修得 ④ Fグループから8単位以上修得												
	【生産環境制御コース】 ① 必修 (*のうち、どちらかを修得) 科目: 28単位 ② Aグループから8単位以上修得 ③ Bグループから2単位以上修得 ④ C、Eの各グループから各4単位以上修得 ⑤ D、F、G、Hの各グループから各6単位以上修得												
	【先端バイオコース】 ① 必修 (*のうち、どちらかを修得) 科目: 27単位 ② A、B、C、D、Eの各グループから各4単位以上修得 ③ Fグループから6単位以上修得 ④ Gグループから8単位以上修得 ⑤ Hグループから14単位以上修得												
	【6次産業化コース】 ① 必修 (*のうち、どちらかを修得) 科目: 26単位 ② Aグループから12単位以上修得 ③ B、C、D、Eの各グループから各6単位以上修得 ④ Fグループから8単位以上修得												
	※ 他コースで履修できない科目 (他学科科目としての履修も不可) 【生産環境制御コース】植物環境生理学、植物環境制御学、植物環境制御学実験Ⅰ、植物環境制御学実験Ⅱ 【先端バイオコース】ゲノム分析実習、環境ゲノム学、人間環境学、バイオ医薬・産業学、遺伝子機能解析学 【6次産業化コース】食の6次産業化プロデューサー集中講義、フードマーケティングの理論と実際、食品生産学外実習												

2) 環境科学科

土壌、水、気象、植物、動物、微生物など自然環境を構成する要素、生態系の仕組みと機能を学習するための基礎科目とともに、農業水利施設の整備と管理技術、自然エネルギーの循環利用、防災など農山村の安全、安心、地域振興に関する科目を設けている。また、これらの主要科目と関連のある実験・演習科目を開設して実験とデータ解析技術の習得と理解の深化を図っている。さらに、環境問題を体験学習するために環境科学フィールド体験実習、里山里海フィールド実習、学外環境関連実習を設けている。なお、最終学年では卒業研究を必修科目とする。環境科学科は次のとおり3つのコースに分かれている。

① 環境科学コース

土、水、生物などの知識をベースに、自然環境を守りながら農業生産環境や生活環境を整備していくための理論と技術を習得することを目標とする。知識の深化、定着化を図るとともに実践的な技術を身につけるため、基礎科目と関連する実験、演習を行う。さらに、現場で環境問題を体験、学習するために、環境科学フィールド体験実習、学外環境関連実習が選択できる。本コースでは、環境に関する幅広い知識により安全で潤いのある快適な地域社会の実現に貢献できる人材を育成する。

② 里山活性化コース

里山里海の景観や資源の保全、自然エネルギー（小水力、地中熱、バイオマス）の活用、自然環境が有する防災機能（グリーンインフラ）の評価、野生動物の管理や生物多様性の保全、農山村振興に資する社会科学的手法等、里山地域の活性化や安全・安心で持続可能な地域社会の実現のために必要な理論と技術の習得を目標とする。実践的な技術を身につけるため、少人数制の実験・実習、里山地域での体験学習を豊富に行う。本コースでは、専門知識を横断的に身につけ、柔軟な発想で地域に貢献できる人材を育成する。

③ 先端バイオコース

環境科学科のカリキュラムである講義と実習を通して、土、水、大気、生物といった環境に関する様々な知識と技術を習得するとともに、生物のゲノム情報の解析方法や遺伝子組換え、その応用、バイオテクノロジーと環境や産業との関わり等に関する講義・実習を受講する。本コースでは、バイオテクノロジーに関する知識、技術を活用して、環境問題に対応できる人材を育成する。

表2. 3 環境科学科における専門科目 <履修規程 別表4> (開講学期補記)

分野	科目番号	授業科目の名称	配当年次	開講学期		各コース単位数 (履修グループ)					
				前期	後期	環境科学		里山活性化		先端バイオ	
						必修	選択	必修	選択	必修	選択
共通科目	200	生物資源環境学概論	1	○		2		2		2	
	201	石川の自然と農林水産業	1		○	2 (A)		2 (A)		2 (A)	
	202	生物統計学	2		○	2 (A)		2 (A)		2 (I)	
	203	応用気象学 (食品除く)	1	○		2 (A)		2 (A)		2 (A)	
	204	環境倫理学	3	○		2 (A)		2 (A)		2 (I)	
	205	栽培学概論	1	○		2 (A)		2 (A)		2 (A)	
	206	廃棄物・資源循環論	3		○	2 (A)		2 (A)		2 (I)	
	207	遺伝学概論	1	○		2 (A)		2 (A)		2 (H)	
	208	植物生理学 I	2		○	2 (A)		2 (A)		2 (I)	
	209	生態学概論	1	○		2 (A)		2 (A)		2 (A)	
	210	微生物学概論	2		○	2 (A)		2 (A)		2 (H)	
	212	分子生物学概論	2	○		2 (A)		2 (A)		2 (H)	
	213	生化学概論	1		○	2 (A)		2 (A)		2 (H)	
	214	農場実習 A	4	○		2 (A)		2 (A)		2 (A)	
	216	分子生物学実習	2	集中		2 (A)		2 (A)		2 (H)	
	217	地域食農フィールド演習	1	通年			1		1		1
	218	生物資源環境学社会生活論	1	○		1		1		1	
	219	土壌環境学 (食品除く)	2	○		2 (B)		2 (B)		2 (B)	
	固有科目	400	環境科学英語	2	○		1		1		1
401		土壌物理学	2	○		2 (B)		2 (B)		2 (B)	
402		土質力学	2	○		2 (B)		2 (B)		2 (B)	
403		大気環境学	2		○	2 (B)		2 (B)		2 (B)	
404		灌漑排水学	2		○	2 (B)		2 (B)		2 (B)	
405		生物多様性学	2	○		2 (C)		2 (C)		2 (I)	
406		植物生態学	3	○		2 (C)		2 (C)		2 (C)	
407		動物生態学	3	○		2 (C)		2 (C)		2 (C)	
408		微生物生態学	3	○		2 (C)		2 (C)		2 (I)	
409		野生動物管理学	3		○	2 (C)		2		2 (C)	
410		水文学	2	○		2 (D)		2 (D)		2 (D)	
411		応用生態工学	3	○		2 (D)		2 (D)		2 (D)	
412		施設工学	3		○	2 (D)		2 (D)		2 (D)	
413		水利システム学	3		○	2 (D)		2 (D)		2 (D)	
414		水資源利用学	3		○	2 (D)		2 (D)		2 (D)	
415		農村計画学	2	○		2 (E)		2 (E)		2 (E)	
416		地域情報プログラミング	2		○	2 (E)		2 (E)		2 (E)	
417		環境マネジメント論	3		○	2 (E)		2 (E)		2 (E)	
418		森林流域環境学 (※1 景観生態学)	3	○		2 (E)		2		2 (E)	
419		緑地環境学	3	○		2 (E)		2		2 (E)	
420		応用数学	2	○		2 (F)		2 (F)		2 (F)	
421		環境経済学	2		○	2 (F)		2 (F)		2 (F)	
422		水理学	2		○	2 (F)		2 (F)		2 (F)	
423		応用力学	2		○	2 (F)		2 (F)		2 (F)	
424		土木材料学	3	○		2 (F)		2 (F)		2 (F)	
425		地形情報処理	3	○		2 (F)		2 (F)		2 (F)	
426	環境関連法規	3		○	2 (F)		2 (F)		2 (F)		
427	生産環境創造学	3	○		2 (F)		2		2 (F)		
428	里山里海活用実践論 ※2	3		○			2				
429	土質・土壌物理実験	2		○	2 (G)		2 (G)		2 (G)		
430	環境基礎実験	3	○		2 (G)		2 (G)		2 (G)		
431	水理学実験	3	○		2 (G)		2 (G)		2 (G)		
432	生態学実験実習	3	○		2 (G)		2 (G)		2 (G)		
433	地形情報処理実習 I	3	○		2 (G)		2 (G)		2 (G)		
434	地形情報処理実習 II	3		○	2 (G)		2 (G)		2 (G)		

分野	科目番号	授業科目の名称	配当年次	開講学期		各コース単位数 (履修グループ)						
				前期	後期	環境科学		里山活性化		先端バイオ		
						必修	選択	必修	選択	必修	選択	
固有科目	435	田園エネルギー活用実習 ※2	3		○			2				
	436	野生動物管理学実習 ※2	3		○			1				
	437	環境科学フィールド体験実習	1	集中			1		1			1
	438	里山里海フィールド実習	2	集中			1	1				1
	439	学外環境関連実習	3	集中			1		1			1
	440	環境科学演習Ⅰ	3		○		1		1			1
	441	環境科学演習Ⅱ	4	通年			2		2			2
	442	卒業研究	4	通年			10		10			10
他学科科目 (カテゴリー内は開講学科)	302	植物遺伝学 (生産)	1		○							2 (I)
	304	植物細胞工学 (生産)	2		○							2 (I)
	305	植物保護学 (生産)	3		○				2			
	338	ゲノム分析実習 (生産) ※2	3		○			2 (A)				2
	339	環境ゲノム学 (生産) ※2	3		○			2 (A)				2
	340	人間環境学 (生産) ※2	3		○							1
	341	バイオ医薬・産業学 (生産) ※2	3	○								2
	342	遺伝子機能解析学 (生産) ※2	3		○							2
	502	生化学 (食品)	2	○								2 (I)
	503	有機化学 (食品)	2	○								2 (I)
	504	分子生物学 (食品)	2		○							2 (I)
	514	食品衛生学 (食品)	3	○					2			
	522	バイオインフォマティクス (食品)	3		○							2 (I)
	523	応用微生物学 (食品)	3	○								2 (I)
備考	【環境科学コース】 ① 必修科目：14単位 ② Aグループから10単位以上修得 ③ B、C、D、Eの各グループから各4単位以上修得 ④ F、Gの各グループから各8単位以上修得											
	【里山活性化コース】 ① 必修科目：28単位 ② Aグループから10単位以上修得 ③ B、C、D、Eの各グループから各4単位以上修得 ④ F、Gの各グループから各8単位以上修得											
	【先端バイオコース】 ① 必修科目：23単位 ② A、B、C、D、Eの各グループから各4単位以上修得 ③ F、Gの各グループから各6単位以上修得 ④ Hグループから8単位以上修得 ⑤ Iグループから14単位以上修得											
	※1 2019年度以前入学生が418の科目を修得した場合は、()内の旧科目名で単位を認定する (別表9参照)											
	※2 他コースで履修できない科目 (他学科科目としての履修も不可) 【里山活性化コース】田園エネルギー活用実習、野生動物管理学実習、里山里海活用実践論 【先端バイオコース】ゲノム分析実習、環境ゲノム学、人間環境学、バイオ医薬・産業学、遺伝子機能解析学											

別表9

改定前の規程での分野	改定前の規程での名称変更	改定後の規程での科目名称	適用年次	開講開始年次
専門科目(環境)	景観生態学	森林流域環境学	2022年度	2022年度

- ① 改定前の規程での科目 (以下「改正前科目」という) で既に単位を修得している場合、改正後の規程での科目 (以下「改正後科目」という) は履修できない。
- ② 改正後科目の履修を行う場合、履修登録と成績評価は改正後科目として行うが、単位は改正前科目で認定する。

3) 食品科学科

食品の素材となる各種生物資源の化学的・生物学的・生化学的特性と機能を理解するための科目を共通の基礎科目として位置づける。それらの講義・演習科目とあわせて食品に関わる各種の基礎的分析・実験技術を修得するための実験科目を開講する。さらに、食品生産・加工現場での体験学習のために学外食品関連実習を開講し、夏季休業期間を利用して、県の研究機関や食品企業等における集中的な実習を課す。なお、最終学年では卒業研究と演習を必修科目とする。

食品科学科は次のとおり3つのコースに分かれている。

① 食品科学コース

食品科学科のカリキュラムである講義と実習を通して、製造加工、安全、機能といった食品に関する様々な知識と技術を習得するとともに、食品科学コースで設けられた食品栄養成分と機能に関する科目、機能性成分の生体調節機能およびその評価に関する科目、食の安全性および衛生に関する科目、品質管理・食品添加物に関する科目を履修する。本コースでは、科学的視点に基づいて食品の研究・開発に貢献できる人材を育成する。

② 6次産業化コース

食品科学科のカリキュラムである講義と実習を通して、製造加工、安全、機能といった食品に関する様々な知識と技術を習得するとともに、6次産業化コースで設けられた農産物の栽培や農業経営、マーケティング、商品企画の講義・実習を履修することによって、食品産業の川上から川下までを理解する。本コースでは農水産物の高付加価値化といった地域の農林水産業と食品産業の活性化に役立つ人材、企業において農林水産物や食品を通じた新たなビジネスを提案できる人材を育成する。

③ 先端バイオコース

食品科学科のカリキュラムである講義と実習を通して、製造加工、安全、機能といった食品に関する様々な知識と技術を習得するとともに、先端バイオコースで設けられた微生物、植物のゲノム情報の解析方法や遺伝子組換え、その応用、バイオテクノロジーと環境や産業との関わり等に関する講義・実習を受講することによって、バイオテクノロジーに関する知識と技術、思考力を持つ人材の育成に取り組む。本コースを受講することにより、バイオテクノロジーを活用した食品成分・医薬品原料・酵素など有用物質の高効率生産、農業関連技術等に対応できる人材を育成する。

表2. 4 食品科学科における専門科目 <履修規程 別表5> (開講学期補記)

分野	科目番号	授業科目の名称	配当 年次	開講学期		各コース単位数 (履修グループ)					
				前期	後期	食品科学		6次産業化		先端バイオ	
						必修	選択	必修	選択	必修	選択
共通科目	200	生物資源環境学概論	1	○		2		2		2	
	201	石川の自然と農林水産業	1		○		2	2			2
	202	生物統計学	2		○		2		2	2 (B)	
	204	環境倫理学	3	○			2		2	2 (B)	
	205	栽培学概論	1	○			2		2		2
	206	廃棄物・資源循環論	3		○		2		2	2 (B)	
	207	遺伝学概論	1	○			2		2	2 (A)	
	208	植物生理学 I	2		○		2		2	2 (B)	
	209	生態学概論	1	○			2		2		2
	210	微生物学概論	2		○		2		2	2 (A)	
	211	生物工学概論 (環境除く)	2		○		2		2		2
	212	分子生物学概論	2	○			2		2	2 (A)	
	213	生化学概論	1		○		2		2	2 (A)	
	214	農場実習 A	2	○			2	2 (A)			2
	215	農場実習 B (環境除く)	2		○		2	2 (A)			2
	216	分子生物学実習	2	集中			2		2	2 (A)	
	217	地域食農フィールド演習	1	通年			1		1		1
	218	生物資源環境学社会生活論	1	○			1		1		1
固有科目	500	食品科学英語	2	○		1		1		1	
	501	食文化論	1		○		2	2			2
	502	生化学	2	○			2		2	2 (B)	
	503	有機化学	2	○			2		2	2 (B)	
	504	分子生物学	2		○		2		2	2 (B)	
	505	食品微生物学	3	○			2		2		2
	506	食品加工学	3		○		2		2		2
	507	食品製造工学	3	○			2		2		2
	508	食品材料学	2	○			2		2		2
	509	食品化学	2	○			2		2		2
	510	食品機能学	2		○		2		2		2
	511	食品栄養学	3	○			2		2		2
	512	食品管理学	3	○			2		2		2
	513	食品分析学	2		○		2		2		2
	514	食品衛生学	3	○			2		2		2
	515	食品素材科学	2		○		2		2		2
	516	食品保蔵学	2		○		2		2		2
	517	調理化学	3		○		2		2		2
	518	食品品質管理論	3		○		2		2		2
	519	食品マーケティング論	3		○		2		2		2
	520	フードコーディネーター論	3	○			2		2		2
	521	食生活論	2	○			2		2		2
	522	バイオインフォマティクス	3		○		2		2	2 (B)	
	523	応用微生物学	3	○			2		2	2 (B)	
	524	食品開発論	3	○			2		2		2
	525	食品物理化学	2	○			2		2		2
526	機器分析学	3	○			2		2		2	
527	フードスペシャリスト論	3	○			2		2		2	
528	食品基礎・生化学実験	3	○			2*		2*		2*	
529	食品製造・調理実験	3	○			2*		2*		2*	
530	食品加工・製造実習 I	3		○		1*		1*		1*	
531	食品加工・製造実習 II ※	3		○				1			
532	食品機能実験	3		○		2*		2*		2*	
533	食品安全実験	3	○			2*		2*		2*	
534	発酵食品実験	2		○		1	1			1	

分野	科目番号	授業科目の名称	配当年次	開講学期		各コース単位数 (履修グループ)					
				前期	後期	食品科学		6次産業化		先端バイオ	
						必修	選択	必修	選択	必修	選択
固有科目	535	学外食品関連実習	3	集中			1		1		1
	536	食品科学演習Ⅰ	2	○			1		1		1
	537	食品科学演習Ⅱ	3		○		1		1		1
	538	フードマーケティングの理論と実際 ※	3		○				2		
	539	食品生産学外実習 ※	3	集中					1		
	540	食品科学総合演習	4		通年		2		2		2
	541	卒業研究	4		通年		10		10		10
他学科科目 (カッコ内は開講学科)	302	植物遺伝学 (生産)	1		○						2 (B)
	304	植物細胞工学 (生産)	2		○						2 (B)
	323	農業経営・農業生産組織論 (生産)	3		○				2		
	326	農林水産政策学 (生産)	3	○					2		
	338	ゲノム分析実習 (生産) ※	3		○						2
	339	環境ゲノム学 (生産) ※	3		○						2
	340	人間環境学 (生産) ※	3		○						1
	341	バイオ医薬・産業学 (生産)	3	○			2		2		2
	342	遺伝子機能解析学 (生産) ※	3		○						2
	405	生物多様性学 (環境)	2	○							2 (B)
408	微生物生態学 (環境)	3	○							2 (B)	
備考	【食品科学コース】										
	① 必修科目：25単位										
	② 4年次の進級には*のうち6単位以上修得										
	【6次産業化コース】										
	① 必修科目：34単位										
② Aグループから2単位以上修得											
③ 4年次の進級には*のうち6単位以上修得											
【先端バイオコース】											
① 必修科目：34単位											
② Aグループから8単位以上修得											
③ Bグループから14単位以上修得											
④ 4年次の進級には*のうち6単位以上修得											
※他コースで履修できない科目 (他学科科目としての履修も不可)											
【6次産業化コース】 食品加工・製造実習Ⅱ、フードマーケティングの理論と実際、食品生産学外実習											
【先端バイオコース】 ゲノム分析実習、環境ゲノム学、人間環境学、遺伝子機能解析学											